

## 第73回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第73回日本体力医学会大会を下記の通り福井県福井市において開催致します。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第73回大会ホームページ（[www.right-stuff.biz/tairyoku73](http://www.right-stuff.biz/tairyoku73)）をご覧ください。

### 記

1. 会 期：平成30年9月7日(金)，8日(土)，9日(日)
2. 会 場：アオッサ（福井県福井市手寄1丁目4-1）  
ハピリン（福井県福井市中央1丁目2-1）
3. 大 会 長：戎 利光  
（福井工業大学スポーツ健康科学部 学部長・主任教授）
4. 大会事務局：福井大学 教育学部 芸術・スポーツ教育講座  
第73回日本体力医学会大会事務局  
事務局長：山田 孝禎  
〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1  
TEL：0776-23-0500（代表）  
E-mail：[jspfsm73@gmail.com](mailto:jspfsm73@gmail.com)  
運営事務局：株式会社ライトスタッフ内  
〒910-0019 福井県福井市春山1丁目1-14 福井新聞さくら通りビル3階  
TEL：0776-25-7201 FAX：0776-25-7202  
E-mail：[tairyoku73@right-stuff.biz](mailto:tairyoku73@right-stuff.biz)
5. 大会プログラム（予定）
  - (1) 大会長講演
  - (2) 特別講演
  - (3) 教育講演
  - (4) シンポジウム
  - (5) ワークショップ
  - (6) 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
  - (7) 学会賞受賞講演
  - (8) ランチョンセミナー
  - (9) 県民・市民公開講座
  - (10) 持久走大会
  - (11) その他

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

# 第72回日本体力医学会大会（愛媛）を終えて



第72回日本体力医学会大会大会長  
愛媛大学医学部附属病院長

三浦 裕正

この度は、第72回日本体力医学会大会開催にあたり、皆様の多大なご援助を賜り、心よりお礼申し上げます。本大会は平成29年9月16日(土)～18日(月)の3日間、愛媛県松山市におきまして開催させて頂きました。本学会の伝統を守り、実りあるものとなりますよう、社会共創学部の浅井英典教授に副大会長としてサポートしていただきながら、整形外科教室員および同門、その他中四国体力医学会会員が一丸となり、充実したプログラムをご用意できたと自負しております。今回も、一般口演329題、ポスター発表529題と、多数の会員の方に演題をご登録頂きましたことも改めて感謝申し上げます。

途中に台風18号の直撃がありましたが、3日間で合計1638名と多数のご参加をいただき、安堵しております。

特別講演は元サッカー日本代表監督で現在は株式会社今治、夢スポーツ代表取締役会長の岡田武史さんに「チームマネージメント 今治からの挑戦」というタイトルの講演をいただきました。また国立スポーツ科学センター“前”センター長・日本体力医学会理事の川原 貴先生に東京オリンピック・パラリンピックに向けてというタイトルでのご講演をいただきました。教育講演には、三重大学教育学部の重松良祐氏、University of Arizonaの本宮暢子氏、その他、シンポジウムは13セッション、ワークショップの2セッションはそれぞれコーディネーターの方々が熱心に企画してくださり、実りの多い大会になったと考えております。

国民の体力向上とスポーツの振興を目的とした学会ですが、整形外科医が大会長を務めるということもあり、整形外科企画として「人工関節とスポーツ」「ロコモティブシンドロームの現状と対策」「サルコペニアの病態と治療の実際」の3つのシンポジウムを企画させていただきました。人工関節のシンポジウムでは股関節・膝関節など下肢の人工関節置換後にスポーツ・レクリエーションに復帰する際の各スポーツにおける現状と問題点について議論されました。高齢化が進む中、我々整形外科医としては手術が除痛のみならずQOLの向上に役立ち、術後の患者が積極的に様々な活動に参加してくれるのを願っていますので、その意味でこのような学会で人工関節が議論されたのは意義のあることでした。サルコペニアも今は非常に話題になっています。高齢者の問題ではありますが、「老い」を科学的にとらえて、対応していくための努力が求められています。本学を始め、様々な施設からこの分野の第一人者をお招きして議論する予定でしたが、ちょうどきた台風のために、何人かのシンポジストが会場に来られなかったのは残念でした。ロコモティブシンドロームでは医師・理学療法士・栄養士など様々な分野のシンポジストに依頼し、多方面からロコモを見直すきっかけとなるシンポジウムを企画しました。3つのシンポジウムとも体力科学という分野における整形外科医の役割を考える上で、非常に

有意義な企画であったと考えております。

愛媛国体は「愛顔つなぐ愛媛国体」をスローガンとしており、本学会もそれにちなんで「愛顔でつなぐ体力医学 ～いで湯と城と文学の街で再考する～」とさせていただきます。松山のシンボルのひとつである道後温泉は有馬温泉、白浜温泉と並び日本三大古湯のひとつに数えられており、その存在は日本書紀や風土記などにも記述がみられます。古名をにきたつといい、万葉集にも額田王が「熟田津（にきたつ）に、船（ふな）乗りせむと、月待てば、潮（しほ）もかなひぬ、今は漕（こ）ぎ出（い）でな」と歌っています。斉明天皇らが朝鮮の百済を助けるため伊予のにきたつを経て九州の筑紫に向かったといわれており、その時の状況を謳ったものです。さあ、旅立ちの時が来たぞという強い決意が感じられる歌であります。

道後温泉本館は愛媛国体終了後の2017年10月頃から耐震改修工事に入る予定で、工期は部分開館で約7～9年という長期間になりますが、今回出席していただいた皆様に道後温泉に行かれた方は、非常に貴重な体験ができたと思います。

大会の準備から運営までをサポート下さいましたヤマダプランニング様、抄録作成にご尽力頂きました鶴岡印刷様、その他ご協力を頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。また、大会プログラム作成にご協力いただいた中四国の学会理事・役員の皆様、会場をお貸しいただいた松山大学様に深謝いたします。

実行委員会を代表し、会員の皆様、ご参加下さいました皆様のご多幸と今後のご活躍を祈念しまして、感謝の言葉とさせていただきます。

# 一般社団法人 日本体力医学会 定款

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

### (地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

## 第2章 目的及び事業

### (目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### (学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

## 第3章 会 員

### (法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の3種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名誉会員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

### (入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

### (経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

### (任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

### (除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

## 第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
  - (1) 会員の除名
  - (2) 監事の解任
  - (3) 定款の変更
  - (4) 解散
  - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

## 第5章 役員等

(役員の設定)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
  - (2) 監事 4名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
  - 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

**(役員を選任)**

- 第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。
- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
  - 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
  - 4 役員を選出についての細則は別に定める。

**(理事の職務及び権限)**

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
  - 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
  - 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

**(監事の職務及び権限)**

- 第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

**(役員任期)**

- 第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続3期までとする。
  - 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
  - 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

**(役員解任)**

- 第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

**(役員報酬等)**

- 第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

**第6章 理事会****(構成)**

- 第28条 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

**(権限)**

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
  - (2) 理事の職務の執行の監督
  - (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
  - (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
  - (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

**(招集)**

- 第30条 理事会は、理事長が招集する。

**(議長)**

- 第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

**(決議)**

- 第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

**(議事録)**

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。  
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

**第7章 評議員及び評議員会****(評議員)**

- 第34条 この法人に、評議員を置く。  
2 評議員は、理事会で選任する。  
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。  
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

**(評議員会)**

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。  
2 評議員会は、評議員会長が招集する。  
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。  
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。  
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

**第8章 資産及び会計****(事業年度)**

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

**(事業計画及び収支予算)**

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。  
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。  
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

**(事業報告及び決算)**

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。  
(1) 事業報告  
(2) 事業報告の附属明細書  
(3) 貸借対照表  
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）  
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書  
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。  
(1) 監査報告  
(2) 理事及び監事の名簿

**(剰余金の分配)**

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

**第9章 定款の変更及び解散****(定款の変更)**

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

**(解 散)**

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

**(残余財産の帰属)**

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

**第10章 公告の方法****(公告の方法)**

- 第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 第11章 事務局

### (事務局の設置等)

- 第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。
- 2 事務局には、所要の職員を置く。
  - 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
  - 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

## 第12章 補 則

### (委 任)

- 第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

## 附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であつて、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に入会したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。
 

設立時社員（住所記載省略）	下 光 輝 一
設立時社員（住所記載省略）	小 野 寺 昇
- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。
 

設立時理事	荒 尾 孝
設立時理事	碓 井 外 幸
設立時理事	大 野 誠
設立時理事	小 野 寺 昇
設立時理事	勝 村 俊 仁
設立時理事	川 久 保 清
設立時理事	川 原 貴
設立時理事	栗 原 敏
設立時理事	坂 本 静 男
設立時理事	定 本 朋 子
設立時理事	下 光 輝 一
設立時理事	下 村 吉 治
設立時理事	鈴 木 政 登
設立時理事	武 政 徹
設立時理事	竹 森 重
設立時理事	田 中 喜 代 次
設立時理事	田 中 宏 暁
設立時理事	田 畑 泉
設立時理事	鳥 居 俊
設立時理事	永 富 良 一
設立時理事	西 平 賀 昭
設立時理事	浜 岡 隆 文
設立時理事	福 永 哲 夫
設立時理事	山 内 秀 樹
設立時理事	吉 岡 利 忠
設立時代表理事	下 光 輝 一
設立時監事	小 林 康 孝
設立時監事	能 勢 博



# 一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

## 第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会費、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

## 第2章 会 費

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) 賛助会員 年額 1口以上（1口50,000円）
- 2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。
- 3 正会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。
- 4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

## 第3章 評議員の選出等

第3条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

- 2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

## 第4章 理事候補及び監事候補の選出等

第4条 理事候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、評議員による選挙によって選出する。

## 第5章 委 員 会

第5条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会
- 2 各常設委員会の任務、任期、定員等は、別に定める。

第6条 この法人に、常設委員会の他、総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

## 第6章 学術講演会、大会長等

第7条 学術大会に大会長を置く。

第8条 大会長は、理事会が推薦し、社員総会で選任する。

- 2 大会長は、当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。
- 3 学術集会の運営等に関する規程は、別に定める。

第9条 大会長は、理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し、議決権を持たない。

第10条 この法人は、理事会の議を経て、学術講演会、研修会、市民公開講座等を開催できることとする。

## 第7章 顧 問

第11条 この法人に、1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、この法人における理事長の経歴を有する者で、次の職務を行う。
  - (1) 理事長の相談に応ずること。
  - (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。
- 3 顧問の選任及び解職は、理事会において決議する。
- 4 顧問は、無報酬とする。

## 第8章 表 彰

第12条 この法人は、日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は、学会賞選考委員会規程に定める。

## 第9章 補 則

第13条 この細則の変更は、社員総会の決議を経なければならない。

## 附 則

1. この細則は、この法人成立の日から施行する。



## 体力科学投稿規定

改訂：2017（平成29）年9月17日

### I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

### II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

### III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hjt-tairyoku@turuin.co.jp

### IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：1頁あたり5,000円の掲載料を著者が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
  - カラー頁は、1頁あたり20,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき10,000円の掲載料を負担する。
- H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

## I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
 鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛  
 [電話FAX 共通 0235-22-3120] E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

## V. 投稿規定

### A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各(和・英)と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する(図表の挿入位置は本文に赤で示す)。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録( Abstract : 研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載) およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words(5語以内)を付ける。Key words は Medical Subject Headings(国立医学図書館:最新号)を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら” “et al.”を用いる。

例1 : 長島<sup>1)</sup>によれば……………

例2 : 手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………

例3 : 馬ら<sup>3)</sup>によれば……………

### 4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。

### 2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名 : 論文表題、掲載雑誌、巻 : 頁(始頁-終頁)、西暦年数の順に記す。

例1 : 長島未央子 : 長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.

例2 : 手島貴範, 角田直也 : 身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.

例3 : 馬 佳濠, 柴田 愛, 村岡 功 : インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.

### 3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名(章名がある場合は書名をイタリック体にする)、版数(括弧に入れる)、編者名(章著者がある場合)、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例 : 彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

### 4) 訳本から引用する場合

著者名(訳者名)、タイトル、出版社、地名、ページ、出版年の順に記す。

例 : アメリカスポーツ医学協会編(日本体力医学会体力科学編集委員会監訳), 運動処方  
 の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.



#### 5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* Vol.1 (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

#### B. ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し、ノートおよび事例報告（症例報告を含む）は原則として刷り上がり4頁以内、図表は2点までとする。

#### C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は、体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題、著者名、所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。

教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが、依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

#### D. 地方会の抄録

原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。

※提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。

#### E. その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）

※Letter to the Editorの項では、本誌に掲載された原著、総説、その他の掲載内容についての質問、疑問、コメント等を編集委員会に寄せ、それに対する回答を執筆者に求め、その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

### VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では、その実験は1964年のヘルシンキ宣言（<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>）で承認された倫理基準、または2014年12月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf>）に従って実施されなければならない。また、ヒト遺伝子を取り扱う実験は、日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究（[http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)）に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では、所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し、さらに所属機関の倫理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（[http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。



## 論文の分類

### I 生理科学的研究

- I-1 神経, 感覚
  - I-1-a 末梢神経
  - I-1-b 中枢神経
  - I-1-c 感覚
  - I-1-d 運動制御
- I-2 運動器
  - I-2-a 筋生理
  - I-2-b 筋生化学
  - I-2-c 骨, 関節
- I-3 呼吸, 循環
  - I-3-a 呼吸
  - I-3-b 心臓
  - I-3-c 末梢循環
- I-4 血液, 免疫
  - I-4-a 血液
  - I-4-b 免疫
- I-5 体液, 内分泌
  - I-5-a 体液, 汗, 尿
  - I-5-b 内分泌
- I-6 代謝
  - I-6-a エネルギー代謝
  - I-6-b 糖代謝
  - I-6-c 蛋白代謝
  - I-6-d 脂質代謝
- I-7 栄養, 消化
  - I-7-a 栄養
  - I-7-b 消化, 吸収
- I-8 形態, 体構成
- I-9 加齢, 性差
  - I-9-a 発育発達
  - I-9-b 老化
  - I-9-c 性差
- I-10 環境
  - I-10-a 温湿度
  - I-10-b 気圧, 風圧
  - I-10-c 低酸素
  - I-10-d 高酸素

- I-11 トレーニング
  - I-11-a 呼吸, 循環
  - I-11-b 代謝
  - I-11-c 筋骨格系他
  - I-11-d 体組成
  - I-11-e その他
- I-12 生活, 健康
  - I-12-a 休養, 疲労
  - I-12-b 健康管理
  - I-12-c 疫学
- I-13 バイオメカニクス
  - I-13-a 力学的情報
  - I-13-b 動作分析
  - I-13-c その他
- I-14 遺伝子
  - I-14-a 遺伝子多型
  - I-14-b 遺伝子制御
  - I-14-c その他
- I-15 その他

### II スポーツ医学的研究

- II-1 スポーツと疾患
  - II-1-a 呼吸器疾患
  - II-1-b 循環器疾患
  - II-1-c 代謝疾患
  - II-1-d スポーツ外傷
  - II-1-e スポーツ障害
  - II-1-f スポーツ歯科
  - II-1-g その他の疾患
- II-2 リハビリテーション, 運動療法
  - II-2-a リハビリテーション
  - II-2-b 運動療法
- II-3 薬物, ドーピング
- II-4 スポーツ心理学
- II-5 その他

## JPFSM : Instructions for Authors

September 17, 2017

*An Official Journal of the Japanese Society of  
Physical Fitness and Sports Medicine*

### The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, case reports, study protocol, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. If English is not the authors' first language, the Editorial Committee recommends the manuscript receives professional editing service before submitting their manuscript to the Journal. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

#### 1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes eight types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 printed pages or less.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 printed pages or less.
- 3) **Case Reports:** A case report is for introducing a rare example or medical case without precedent, not for verifying a hypothesis. The manuscript being submitted must consist of actual examples (usually from one to two or more) of various issues or phenomena from physical activities, sports, etc. Such issues or phenomena should come from the area of physical fitness and sports medicine, or therapeutic/instructional topics, etc. These articles should be 4 printed pages or less. A case report is a brief report categorized under *Case Reports* and should be organized as follows: "Abstract", "Introduction", "Case Report", "Discussion", "References".
- 4) **Study Protocol:** A study protocol is for introducing a method of verifying various issues or phenomena from physical activities, sports, etc that are from the area of physical fitness, health science, and sports medicine. The study must be in the planning stage or in progress. These articles should be 10 printed pages or less. For





reporting a protocol of a randomized controlled trial, it must conform to the SPIRIT Statement (Standard Protocol Items for Randomized Trials) (<http://www.spirit-statement.org/>).

- 5) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 printed pages or less.
- 6) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors' own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 printed pages or less.
- 7) **Letters to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors' reply are limited to a printed page each.
- 8) **Proceedings:** Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Volume 6 of the journal.

## 2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Authors should submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.
- 4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

## 3. SUBMISSION GUIDELINES

- 1) The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".  
<http://www.editorialmanager.com/jpfsm/>
- 2) Proceedings must be submitted through the Annual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

## 4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine  
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan  
**E-mail: [hj-tairyoku@turui.co.jp](mailto:hj-tairyoku@turui.co.jp)**

## 5. MANUSCRIPT PREPARATION

### 1) Cover Letter

The "Required Submission Form" should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author's name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author's name and address should be written in Japanese as well as English.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

## 2) Manuscript

Authors should use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

**(1) Title page** The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). The corresponding author's e-mail address should be included in the title page. An asterisk(\*) should be added to the right of the corresponding author's name.

**(2) Abstract and Keywords** Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese, if a manuscript is written by Japanese authors.

**(3) Main text** The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, authors will require to formally submit their paper in electronic format.

## 6. MANUSCRIPT FORM

**1) Affiliations** When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript 1, 2, 3... placed after each author's name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

<sup>1</sup>Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>2</sup>Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>3</sup>Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

<sup>4</sup>Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan

**2) Abbreviations** Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Authors should limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD<sub>50</sub>, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

**3) Units** The following units should be used: length (m, cm, mm, μm, nm), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol, μmol, nmol), volume (l, ml, μl), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μg/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

**4) Nomenclature** The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

**5) Tables** Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend *etc.* under the table.

**6) Figures** Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions *etc.* should be given on a separate page, under the heading “Figure Legend”.

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should



be marked with the first author's name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

**7) References** References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text. Indication of doi (digital object identifier) is encouraged.

Examples of references are as follows:

*For references with only one author:*

Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

*Two authors:*

Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247. doi:10.3177/jnsv.52.233.

*Up to twenty authors:*

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. 2008. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400. doi:10.1254/jphs.08097FP.

*More than twenty authors, list the twenty followed by et al.:*

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. et al. 2012. Some aspects of heat stress on the plasticity of skeletal muscle cells. *J Phys Fitness Sports Med* 1: 197-204. doi: 10.7600/jpfs.1.197.

*Citation from a book:*

Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagasaki M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.

*Citation from a paper in Japanese:*

Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese). doi:10.7600/jspfs.60.279.

If more than two references with the same year and author(s) are cited, use lowercase letters after the year (Tanaka et al. 2015a, 2015b). Lowercase letters should be inserted in same-year references in the reference list.

## 7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

**1)** For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 ( <http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/> ) and/or Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects ( <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000080278.pdf> ), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" ( [http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html) ). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for

publication. "Materials and methods" sections on research using human subjects or samples must include ethics statements that specify: the study was carried out in accordance with the appropriate guidelines, and the name of the approving institutional review board or equivalent committee(s) with the approval number.

- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. "Material and methods" sections of manuscripts reporting results of animal research must include required ethics statements that specify: the study was conducted according to the appropriate guidelines, the full name of the institutional Animal Care and Use Committee or equivalent ethics committee that approved the work, and the associated permit number(s).
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, the guidelines for a conflict of interest (COI), as related to operations implemented by the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, shall be followed ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)). In the event the guidelines are partially applicable, ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board. In the event the guidelines are not applicable to the regulated conflict of interest condition, this should be declared by writing "Conflict of Interests: The author(s) declare that there is no conflict of interests regarding the publication of this article" at the end of the article.

## 8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

## 9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	5,000	20,000
Short Communication	5,000	20,000
Case Report	5,000	20,000
Study Protocol	5,000	20,000
Review (submitted)	5,000	20,000
Short Review (submitted)	5,000	20,000
Letters to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

## 10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.



### Categories covered

- |                                      |  |                                   |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system         | 2 Motor control                        | 3 Musculoskeletal system          |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology            | 6 Humor and endocrinology         |
| 7 Metabolism                         | 8 Nutrition and digestion              | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference       | 11 Environmental physiology            | 12 Exercise training              |
| 13 Lifestyle and health              | 14 Biomechanics                        | 15 Genes and gene regulation      |
| 16 Sports medicine and diseases      | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping                |
| 19 Sports psychology                 | 20 Miscellaneous                       |                                   |

## ご 案 内

### 〈各種手続方法〉

	連絡先	住 所	電話番号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 一般社団法人日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階 E-mail: jspfsm@asas-mail.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦が必要 入会はHPより登録 <a href="http://www.jspfsm.umin.ne.jp/information/index.htm">http://www.jspfsm.umin.ne.jp/information/index.htm</a>
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,960円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は <a href="http://www.editorialmanager.com/jspfsm/">http://www.editorialmanager.com/jspfsm/</a>	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は <a href="http://www.editorialmanager.com/jpfsm/">http://www.editorialmanager.com/jpfsm/</a>	「JPFSM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFSM」 投稿規定はHP参照のこと

### 〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒060-0811 北海道札幌市北区北11条西7丁目  
北海道大学大学院教育学研究院健康体育学分野  
水野 眞佐夫 (事務局長: 柚木 孝敬)  
TEL: 011(706)3296 (FAX共通)  
E-mail: mizuno@edu.hokudai.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1  
福島大学人間発達文化学類  
安田 俊広 (事務局長)  
TEL: 024(548)8209 (FAX共通)  
E-mail: yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 関東地方会 〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号  
東京慈恵医科大学・分子生理学講座・体力医学研究室  
竹森 重・山内 秀樹 (事務局担当 田口 美香)  
TEL: 03(5400)1200 (内線2216)  
FAX: 03(3431)3827  
E-mail: mol-phys@jikei.ac.jp
- 北陸地方会 〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学2-224  
田村 暢熙 (事務局長)  
TEL: 076(286)1078  
E-mail: tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学総合保健体育科学センター  
押田 芳治 (幹事 水野 貴正)  
TEL: 052(789)3961 (押田), 3959 (水野)  
FAX: 052(789)3957  
E-mail: oshida@htc.nagoya-u.ac.jp  
mizuno@htc.nagoya-u.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野  
吉川 貴仁  
TEL: 06(6645)3790 FAX: 06(6646)6067  
E-mail: wsports@med.osaka-cu.ac.jp  
事務局からのお知らせ: jspfsm-kinki@med.osaka-cu.ac.jp
- 中国・四国地方会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288  
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科  
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)  
TEL: 086(462)1111 (内線 54041, 54835)  
FAX: 086(464)1109  
E-mail: jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp  
URL: <http://jspfsmchu4.wixsite.com/chu4>

### 〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE  
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:  
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA  
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports  
Medicine, 319 Longwood Avenue,  
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA  
Tel: +617 355 6970  
Fax: +617 730 0694  
Email: michelilyle@aol.com  
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

## 2017年度第1回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2017年9月15日(金) 16:00~17:00

場所：松山大学カルフール3F 会議室1

出席者：田中喜代次(委員長), 後藤勝正(副委員長), 家光素行, 大藏倫博, 川中健太郎, 小山勝弘, 武政 徹, 竹森 重, 中田由夫, 成田和穂, 浜岡隆文, 藤井宣晴, 松尾知明, 宮下政司, 吉川貴仁, 和気秀文(各委員)  
(編集事務局：佐藤信之, 本間佳子, 田中加奈子)

欠席者：赤間高雄, 秋本崇之, 宇高 潤, 木崎節子, 木田哲夫, 小宮秀明, 小宮山伴与志, 小山照幸, 重松良祐, 田中英登, 寺田 新, 十枝内厚次, 中澤公孝, 藤田 聡, 麓 正樹, 前田清司, 宮地元彦, 山内秀樹, 渡辺 賢(各委員)(委任状16通)

### 【審議事項および報告事項】

#### 1. 2016年度第2回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

#### 2. JPFISMオリジナルwebsiteの運用について

副編集委員長よりJPFISMを国際オープンアクセスジャーナルとして発展させ、PubMed収録を目指すために、JPFISMオリジナルwebsiteの運用を開始する旨が説明された。

DOAJ (Directory of Open Access Journals) への収録を目指し、websiteには、以下の事項の明示が必須要件となった。

- 1) BOAI (Budapest Open Access Initiative) statementあるいはそれに準拠したオープンアクセスstatement
- 2) 査読プロセス
- 3) 編集委員会の名簿
- 4) Licensingや著作権情報

CCライセンスを採用することが求められ、JPFISMとしては「表示-非営利-改変禁止」というクレジットが一番現状の著作権の運用に近いと考えられる。本学会では学術利用であっても使用許諾を求め、かつ図表が4点以上の場合には原則許諾料を要求しているため、二次利用の際の「学術利用」については、原則として「許諾の必要なし、かつ無料で使用可」と変更された。(2017年8月25日改定)

- 5) Aims and scope
- 6) 他 (Language Editorの掲載など)

現在JPFISMで英文校閲を依頼しているDr Marshall Smith (Associate Professor, Department of Human Science, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine: 国立大学法人帯広畜産大学人間科学研究部門准教授)にLanguage Editorへの就任と雑誌およびwebsiteへの氏名の掲載を依頼

し、快諾された。

オリジナルwebsiteについては、公開後に意見を集約し反映することとした。

#### 3. JPFISM審査基準と方針について

副編集委員長より、査読期間の短縮および査読基準(掲載基準)における配慮について説明された。査読期間を、原則2週間以内と短縮し、JPFISMの投稿数の増加をはかりたい。現時点でJPFISMの採択率は40%未満と報告され、当面採択率は3分の2程度とする。査読ならびに掲載可否の判定については、「迅速な判断」と「教育的配慮」が勧奨された。修正に付する論文は、そのほとんどが掲載される見込みがある原稿のみとする。

出席委員より、カテゴリー別の採択率ならびに投稿受理からFirst decisionまでの日数について質問があり、後日編集事務局より集計結果を編集委員にメールで報告することとなった。

#### 4. 本学会倫理委員会から研究倫理審査の承認を受けた研究論文の投稿について

倫理委員長より、本年8月21日より、所属機関に倫理審査委員会がない本学会会員からの研究倫理審査を、本学会倫理委員会で受け付けることになったこと、承認された研究の成果を論文発表する場合は、体力科学またはJPFISMへの投稿を義務づけているので、投稿があった場合は編集委員のご協力を願う、という報告があった。

#### 5. 「体力科学」[JPFISM] 特集号について

編集委員長より、体力科学や体力医学に関連する研究分野においてhotなトピック (hot spot) に焦点をあてた「特集号」を設定し、「体力科学」はすでに依頼、「JPFISM」については準備中と報告された。今後、平成31年度以降の特集号についても担当編集者と掲載希望を募ることとなった。

#### 6. JPFISM・体力科学誌の投稿状況と現状報告 (2016年9月1日~2017年8月31日現在)

副編集委員長より、JPFISM誌・体力科学誌の投稿・掲載状況、審査期間、J-STAGEのアクセス統計について報告された。新規投稿についてはJPFISM誌: 42編(前年比11編増)、体力科学誌: 57編(前年比13編増)であった。JPFISM誌では不備のため受付不可の投稿が5件あり、その内訳は国内3件、海外2件と報告された。JPFISMのアクセス統計に関しては、2016.9.1~2017.7.31までの11ヵ月間で、前年比13,000件の増となっていることが報告された。

## 第32回日本体力医学会近畿地方会のご案内

日 時：平成30年2月17日(土)  
10:00～17:30 (受付9:30)  
会 場：帝塚山大学 学園前キャンパス  
アクセス：近鉄奈良線「学園前」駅下車  
南出口徒歩1分

問い合わせ先：  
第32回日本体力医学会近畿地方会  
大会会長 帝塚山大学心理学部 川合 悟  
E-mail: skawai@tezukayama-u.ac.jp  
TEL: 0742-41-4808 FAX: 0742-41-4905

シンポジウム：

「社会で生き抜く体力」を考える

シンポジスト：

山本隆宜氏 (帝塚山大名誉教授), 盛永政和氏 (一般社団法人LITTO-LABO), 関 智子 (帝塚山大学)

## 第171回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：平成30年3月3日(土) 13:00～18:00  
会 場：東洋大学朝霞キャンパス  
埼玉県朝霞市岡48-1 (<https://www.toyo.ac.jp/site/access/access-asaka.html>)  
東武東上線「朝霞台」駅または、JR武蔵野線「北朝霞」駅下車、徒歩10分  
\*お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

特別公開講座：  
「スポーツと栄養 -理想的な食事パターンとは-」  
演者：太田昌子 (東洋大学食環境科学部健康栄養学科)  
教育講演：「乳酸の役割を再考する」  
演者：八田秀雄 (東京大学大学院院総合文化研究科)  
一般口頭発表

[一般演題の締め切り予定：平成30年2月3日(土)]  
大会長：鈴木哲郎 (東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科)  
Tel & Fax: 048-468-6311  
E-mail: tetsuro@toyo.jp

## 日本体力医学会関東地方会事務局からのお知らせ

日本体力医学会関東地方会は、発足当時から年3回の開催を基本とし、今日まで発展してまいりましたが、関東地方会員数を考えますと、参加者数や一般演題数は必ずしも十分とは言えませんでした。そんな中で地方会年間補助金の削減(2017年8月定例理事会議事録参照、体力科学66巻5号お知らせページに掲載)もあり、関東地方会の意義を明確にしながら年1回の開催とさせていただきますことをご了承ください。何卒、ご理解のほどよろしくお願い致します。

日本体力医学会関東地方会事務局  
東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室  
竹森 重, 山内秀樹 (事務局担当 田口美香)  
〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号  
電話 03-5400-1200 (内線2216) FAX 03-3431-3827  
E-mail mol-phys@jikei.ac.jp



## 第29回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

日本体力医学会学術委員会主催の本研修会は基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。実習は救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、傷害予防・機能回復の筋カトレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。

称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了承下さい。

平成29年11月10日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会委員会

中里浩一 岡本孝信 須永美歌子 進藤大典 太田 眞 蕪木智子 清水智美 宇高 潤

### 1. 会 場

日本体育大学東京世田谷キャンパス、各教室および中央測定室など

### 2. 日時および研修内容

#### (I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

2018年(平成30年)6月30日(土)

9:00~10:40	オリエンテーション、有疾患に対する運動療法の考え方
10:40~10:50	休憩
10:50~11:50	高次脳機能と運動 - 認知症予防のための運動など-
11:50~12:50	筋骨格系組織と運動 - 寝たきり予防のための運動など-
12:50~13:50	昼食・休憩
13:50~14:50	循環器・呼吸器と運動 - 肺疾患に対する運動など-
14:50~15:50	幼児期および成長期における運動
15:50~16:00	休憩
16:00~17:00	運動、栄養、生活習慣病予防について
懇親会（会費3000円、参加自由）	

2018年(平成30年)7月1日(日)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:30~10:40	休憩
10:40~12:10	運動器疾患に対する運動療法
12:10~13:10	休憩
13:10~14:40	心・循環器疾患に対する運動療法
14:40~14:50	休憩
14:50~16:20	メタボリックシンドロームに対する運動療法
16:20~16:30	休憩
16:30~18:00	投薬患者への運動療法の基礎

## (II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋カトレニング実習も行います。

2018年(平成30年)8月3日(金)

- 9:00~12:00 運動処方実習(a)(トレッドミルおよび自転車エルゴメータを利用した運動負荷試験, 心電図記録, 呼吸機能検査, 乳酸測定など)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 運動処方実習(b), 尿検査, 体組成測定, 筋力/筋パワー測定など

2018年(平成30年)8月4日(土)

- 9:00~12:00 運動処方の実際(a)(前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被験者の運動処方を作成し, 実施する)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 スポーツ傷害予防実習(救急救命実習, テーピング, 筋力/筋パワートレーニング)

### 3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験は2018年(平成30年)8月5日(日)10:00~12:00に日本体育大学東京世田谷キャンパスで行います。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集(正解/解説付)」(税込:2,000円)がありますので、是非ご利用下さい。下記の「9. 申込書送付先および問い合わせ先」へお申込み下さい。

### 4. テキスト

担当講師が用意した講義資料をテキスト化しそれに準じて講義が行われます。また、プレゼンテーション資料も必要に応じて当日配布致します。

### 5. 受講料

受講料は(I)基礎コース、(II)応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース(基礎コース、応用コースの各コースを単独受講)を受講する場合はそれぞれ25,000円(2日間コース)です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば、単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円(基礎・応用コース)と致します。ただし学生証の呈示が必要です。

### 6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

### 7. その他

健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位(60分1単位)について、基礎コースでは講義14単位、応用コースでは講義0.3単位および実習12.7単位がそれぞれ認定される予定です(2018年4月申請予定)。また、

THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）のレベルアップ研修における基礎コース5単位、応用コース5単位が認定される予定です（現在認可申請中）。

## 8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込み下さい。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承下さい。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

※本学会ホームページの“お知らせ”にある、「スポーツ医学研修会」および「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」を確認し、手続きの参考にしてください。

## 9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F

一般社団法人学会支援機構内

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

電話: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012

E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

---

## 第29回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申し込みます。（該当する□にレ印をつけて下さい。）

第29回 基礎コース

第29回 応用コース

試 験

氏 名 \_\_\_\_\_

連絡先 〒 \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ E-Mail: \_\_\_\_\_

# 日本医学会だより

JAMS News

2017年10月 No.58  
日本医学会

## ◆日本医学会臨時評議員会

6月15日(木)に臨時評議員会が開催された。

協議事項は「日本医学会役員」の件。臨時評議員会前に開催された日本医学会連合定時総会で会長、副会長、理事候補が選出されているが、臨時評議員会終了後に開催される連合理事会にて役員が決定した際は、連合の会長、副会長(3名)を日本医学会の会長・副会長に、連合の副会長1名と理事及び監事(計19名)を日本医学会幹事とすることについて審議され、承認された。

## ◆日本医学会公開フォーラム

第23回日本医学会公開フォーラムは「感染症とがん—感染症対策でがんを予防しよう!—」をテーマに、10月14日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催。

組織委員長は、津金昌一郎国立がん研究センター社会と健康研究センター長。詳細は日本医学会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)に掲載。

## ◆日本医学会シンポジウム

第152回シンポジウムは「がんゲノム医療の到来」をテーマに、11月23日(木・祝)13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催する。

組織委員は、間野博行、吉田輝彦の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加

費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月1日(金)に開催し、平成29年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員並びに特例委員が、今年度の推薦数：医学賞18、奨励賞29を審査した。

選考の結果、11月1日(水)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・骨免疫学による自己免疫疾患および骨関節疾患の研究/高柳 広(東大・免疫学)
- ・未病と予防の遺伝環境医学に関する研究/小泉昭夫(京大・環境衛生学)
- ・糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用/荒木栄一(熊本大・代謝内科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・新生児消化器疾患の病態解明に向けた腸管免疫細胞の網羅的解析/澤 新一郎(北大遺伝子病制御研究所)
- ・組織幹細胞の分化・増殖機構の解明と内因性心筋再生の増幅方法開発への応用/武田憲文(東大・循環器内科)
- ・ペア型免疫受容体に着目したアレルギー疾患の制御機構解明と治療法開発/伊沢久未(順天堂大アトピー疾患研究センター)

- ・保護的ミクログリアによる血管新生から機能回復を目指す脳梗塞治療法の開発/金澤雅人(新潟大脳研究所・神経内科学)
- ・DNA修復機構を基盤とした, 合成致死抵抗性腫瘍に対する新規治療法の提示/中田慎一郎(阪大・小児科学)
- ・ガングリオシドを標的とした関節軟骨損傷に対する新たな分子標的の同定/小野寺智洋(北大・整形外科)
- ・子ども期の貧困及び虐待が成人期までの健康に及ぼす影響に関する疫学研究/藤原武男(東京医歯大・国際健康推進医学)
- ・化学物質曝露が小児のアレルギー疾患に与える影響について～社会医学と臨床医学の連携による分子疫学研究～/辻 真弓(産業医大・産業衛生学)
- ・光を用いた肺がん制圧を目指して: 小細胞肺がんに対する新規光線療法とコンパニオン診断システムの開発/佐藤和秀(名大・呼吸器内科)
- ・侵襲性真菌感染症に対する全国疫学調査と新規治療戦略の開発/宮崎泰可(長崎大・臨床感染症学)
- ・蛋白結合尿毒症物質に着目した慢性腎臓病関連疾患のメカニズム解明と治療法の開発—尿毒症物質の生成減少と除去向上を目指す—/山本 卓(新潟大・腎・膠原病内科学)
- ・メタボローム解析を利用した膵癌遠隔転移予測因子の検討/千葉齊一(東京医大八王子医療

センター・消化器外科・移植外科)

- ・前十字靭帯再建術後の靭帯折れ曲がり角度が靭帯治癒に与える影響の解明/田代泰隆(九州労災病院・整形外科)
- ・着床障害の分子機構の解析と新規診断・治療法の開発/廣田 泰(東大・女性診療科・産科)
- ・尿路上皮癌の再発時に起きるゲノム異常の解析/日向信之(神戸大・腎泌尿器科学)

## ◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第16回委員会を8月29日(火)に開催した。

主な議題は, 1. 委員会の設立経緯, 現状と課題, 2. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」について施設認定・登録部会からの報告, 共同声明及び指針を無視して実施している施設への対応, 3. 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構(JOHBOC)からの報告, 4. 日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2011)について, 5. その他: ゲノム医療実現推進に向けた取り組み等である。

## ◆日本医学会定例評議員会

第85回日本医学会定例評議員会を平成30年2月28日(水)14:00~16:00, 日本医師会館小講堂にて開催予定。主な議題は1. 平成29年度年次報告, 2. 平成30年度事業計画, 3. 日本医学会新規加盟学会の件, 4. その他である。

# 編 集 後 記

秋たけなわ、気持ちのよい季節になり、紅葉の見頃情報などが天気予報の時に流れている。振り返ってみると、今年の日本は雨が多かった。松山大学で行われた愛媛大会の時も台風18号にやられたが、関東地方は2週連続して週末に台風21号、22号に直撃された。行楽地に行けずに悔しい思いをした人が多いだろうが、私は落ち着いた気持ちで自宅での原稿に取りかかることができた。ただ、土砂降りの雨で犬と朝の散歩ができないのは困った。犬もストレスがたまるが、大切な習慣となっている散歩ができないのは人間の方もつらい。座業が長くなると、腰のあたりが重たくなってくる。

自宅から筑波大学まで、車で10分ほどの距離である。「職住近接」はつくば地区に住む人によくあるライフスタイルである。都心から適度に離れた豊かな自然、科学のまちならではの知的な環境、これらの魅力をあわせて楽しみながら、住み、働き、学び、遊ぶ。これが「つくばスタイル」といわれており、同名のローカル雑誌も存在する。私としては、上記のキーワードの他に「運動する」というキーワードが重要である。夜明けとともに起きて犬と一緒に散歩する。昼休みはオフィスから歩いて3分のところにある大学のプールで泳ぐ。授業を終えた学生達のトレーニングする声でオフィスの窓の外が騒がしくなった頃、躍動する学生アスリートの練習風景を観に行く。頑張っている姿を頭に焼き付けて、もう一踏ん張り仕事をし、20時頃帰宅。夕食後、自宅の小さなトレーニングルームで、肩甲骨周りや股関節周りをほぐすスリングエクササイズ。日付が変わる前に犬と一緒に就寝。身体を動かすことは自分の生活になくてはならないものになっている。

生物学出身で、医学の畑を経て、体育の世界にやってきたのが17年前。体育科学の分野の研究者は頭の活動と身体活動のバランスがよいと感じている。生物学の研究をしていた頃は生体材料に時間を合わせるため、生活は不摂生になりがちであった。ストレスマネジメントがうまくできていないと感じることも多く、身体の不調は慢性的になっていた。体育の教員になってからは実技の授業で自ら身体を動かすほか、運動する機会が多い。知的な活動も座業だけでは息が詰まってはかどらない。

体力科学第66巻第6号をお届けする。原著8編が収められている。外科系スポーツ医学、内科系スポーツ医学の話題を始め、小学生から思春期、高齢者を研究対象とした身体活動量の評価に関わる話題、運動介入が血管内皮機能、運動習慣形成や認知機能に及ぼす影響など、体力科学研究の懐の広さを伺える論文がバランスよく並んでいる。毎号「体力科学」や「JPFMS」に掲載される論文を、会員の皆さんと一緒に勉強して、自分の「寿命と健康寿命と労働寿命を一致させる」という目標を実現する糧にしたいと考えている。

9月15日に松山大学の会議室で行われた「日本体力医学会編集委員会」では、「体力科学」や「JPFMS」の認知度を向上させるために、体力科学や体力医学に関連する研究分野のホットなトピックを取り上げ、それに関する原著論文、総説、資料などをまとめて掲載する「特集号」を、年に一回以上企画することを決定した。会員各位には特集して欲しいテーマなどあれば、積極的に近隣の編集委員までお知らせいただけるとありがたい。

武 政 徹

## The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.66, No.6

### 体 力 科 学 第 66 巻 第 6 号

平成 29 年 11 月 25 日 印 刷

平成 29 年 12 月 1 日 発 行

編集兼発行者  
発 行 所

田 中 喜 代 次

一般社団法人日本体力医学会

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内

TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012

E-mail : jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1

鶴岡印刷株式会社内

TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120

E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1

鶴岡印刷株式会社